

石狩市浜益区の面接調査の結果についてのメモ

1. 調査の実施について

- ① 昨年11月19日(日)～20日(月) 10名の浜益区住民の方へのヒアリング
- ② 支所と教育委員会の協力のもとに実施。

2. 調査対象について

- ① 68歳 男性(妻) 群別 元支所職員
- ② 69歳 女性(夫) 幌
- ③ 34歳 男性(妻、長男、長女、次女、父、母) 柏木 農業(畜産)
- ④ 37歳 女性(夫、長男、長女) 夫は支所職員
- ⑤ 57歳 男性(母) 柏木 15年前に親と同居するために戻ってくる
- ⑥ 74歳 女性(次女、次女の夫、次女の長男) 川下 人形作家
- ⑦ 76歳 男性(妻) 川下 退職後 2010年
- ⑧ 50歳 男性(妻、長女、次女、3女) 川下 自営
- ⑨ 59歳 男性(妻) 幌 支所職員
- ⑩ 63歳 男性(妻) 会社は幌(自動車整備会社 自営)、住居は柏木。

3. 調査をしてわかったこと

- ① 合併してから、高校がなくなってしまうことは想定外のことであり、多くの方が戸惑いを感じている。そして、学校教職員がいなくなり、高校生自身が札幌市や石狩地区に転出したとしても、家族も一緒に浜益を離れることがあるとは全く予想していなかったことであり、高校の廃校が地域の人口減少に拍車をかけることになったことに驚いている。
- ② 買物については殆どの人が地元で買物することを諦めているといってもよい。札幌市や石狩地区などで買物(まとめ買いが多く一車で移動できることが条件となっている)をするだけでなく、若年層にはネット通販が普及している。
- ③ 漁業や畜産ではむしろ人出不足になっている。それは今すぐ解決することは出来ず、東京五輪が終わるまでは何ともし難いものと思われる。
- ④ 自分の子どもたちがずっと浜益に残ってくれる、また離れている子どもがやがて戻ってくると確信している者は誰もいない。
- ⑤ 人口減少は深刻だが、それを解決する人材は少なくないと感じた。

4. 今後話し合われるべき課題について

- ①ー 高校進学後に家族までも出ていかなないようにする手立てをどう考えるか。
今後の小中学校の存続・統廃合についてどう考えるか。
- ②ー 買物について、とくに高齢者の買物をどう支援するか(移動販売などを含む)。
将来、商店がなくなってしまうてもよいか、買物が出来る場所をどう残すか
- ③ー 漁業や畜産の担い手をどう確保するか、新規就業者を受け入れることが必要か、その場合それを支援する仕組みを地域にどう作り上げるか(行政の役割を含む)。
- ④ー 高齢者夫婦やひとり暮らしの高齢者が住み続けられるようにすること、安心して老後の暮らしが浜益か石狩市内で出来るようにする施設の整備、子どもたちが浜益を故郷として大切にすることができる学校を含む教育の体制をいかに作るか。
ーまず、このような問題について浜益区の人々が自由に議論でき、解決策を学ぶための適切な場を創っていくことが社会教育として重要である。